

ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド 〈為替ヘッジなし〉（年2回決算型）

追加型投信／内外／債券

作成対象期間：2021年10月21日～2022年4月20日

第 10 期 決算日：2022年4月20日

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
当ファンドは、主として円建て外国投資信託への投資を通じて、世界（新興国を含みます。）の幅広い種類の公社債およびそれらの派生商品を高位に組み入れ、利子収益の確保および長期的な値上がり益の獲得をめざす運用を行います。ここに運用状況をご報告申し上げます。
当ファンドが受益者のみなさまの資産形成に資するよう、運用に努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

第10期末（2022年4月20日）

基準価額	12,029円
純資産総額	7,218百万円
騰落率	+4.5%
分配金合計 ^(*)	10円

(注) 騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率で表示しています。

(*) 当期間の合計分配金額です。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めており、以下の方法でご覧いただけます。運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。


閲覧・ダウンロード方法



<https://www.am.mufg.jp/>

[ファンド検索] に
ファンド名を入力

各ファンドの詳細ページで
閲覧およびダウンロード

 **MUFG** 三菱UFJ国際投信

東京都千代田区有楽町一丁目12番1号
ホームページ <https://www.am.mufg.jp/>

■当運用報告書に関するお問い合わせ先

お客さま専用
フリーダイヤル  **0120-151034**

(受付時間：営業日の9：00～17：00、土・日・祝日・12月31日～1月3日を除く)

お客さまのお取引内容につきましては、お取扱いの販売会社にお尋ねください。

運用経過

第10期：2021年10月21日～2022年4月20日

▶ 当期中の基準価額等の推移について

基準価額等の推移



第10期首	11,520円
第10期末	12,029円
既払分配金	10円
騰落率	4.5%

(分配金再投資ベース)

※分配金再投資基準価額は、分配金が支払われた場合、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものではありません。

※実際のファンドにおいては、分配金を再投資するかどうかについては、受益者のみなさまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、各個人の受益者のみなさまの損益の状況を示すものではない点にご留意ください。

基準価額の動き

基準価額は期首に比べ4.5% (分配金再投資ベース) の上昇となりました。

基準価額の主な変動要因

上昇要因

債券利子収入を享受したこと。
米非政府系住宅ローン担保証券が上昇したこと。
米ドルが対円で上昇したこと。

下落要因

米国金利が上昇したこと。
新興国債券が下落したこと。
信託報酬等の運用上の費用がかかったこと。

2021年10月21日～2022年4月20日

▶ 1万口当たりの費用明細

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a)信託報酬	105	0.921	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×(期中の日数÷年間日数)
（投信会社）	(58)	(0.510)	ファンドの運用・調査、受託会社への運用指図、基準価額の算出、目論見書等の作成等の対価
（販売会社）	(45)	(0.395)	交付運用報告書等各種書類の送付、顧客口座の管理、購入後の情報提供等の対価
（受託会社）	(2)	(0.016)	ファンドの財産の保管および管理、委託会社からの運用指図の実行等の対価
(b)その他費用	0	0.001	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（監査費用）	(0)	(0.001)	ファンドの決算時等に監査法人から監査を受けるための費用
合計	105	0.922	

期中の平均基準価額は、11,425円です。

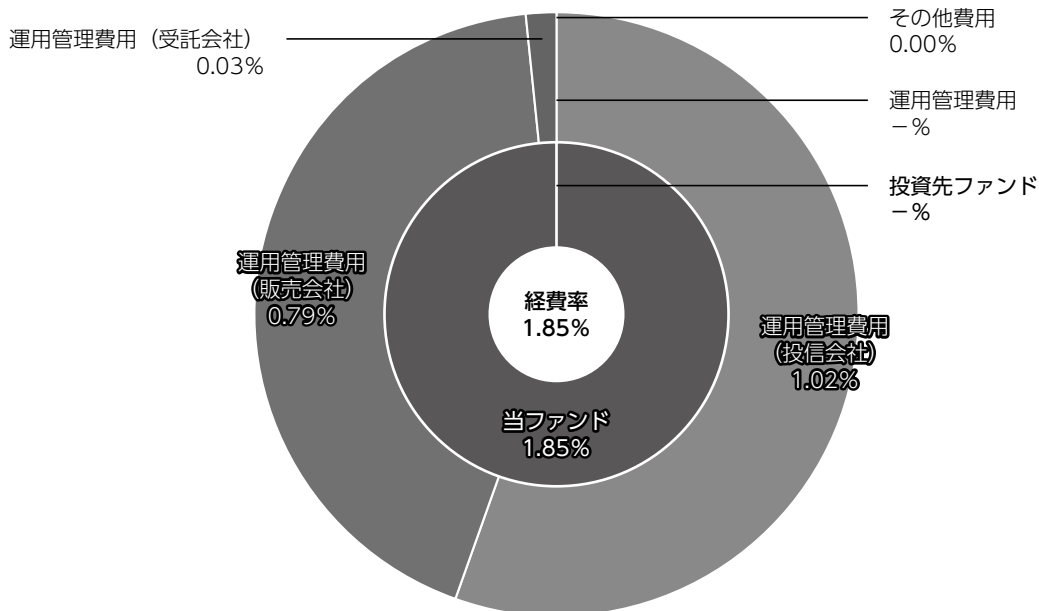
- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

- (注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）が支払った費用を含みません。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入れ上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した**経費率（年率）は1.85%**です。



経費率 (①+②)	(%)	1.85
①当ファンドの費用の比率	(%)	1.85
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	(%)	-

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、このファンドが組入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）です。

(注) ①の費用は、マザーファンドが支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 前記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用がある場合がありますが、前記には含まれておりません。

2017年4月20日～2022年4月20日

最近5年間の基準価額等の推移について



※分配金再投資基準価額は、設定時の値を基準価額と同一となるように指数化しています。

最近5年間の年間騰落率

		2018/4/20 期初	2019/4/22 決算日	2020/4/20 決算日	2021/4/20 決算日	2022/4/20 決算日
基準価額 (円)	—	9,497	10,262	9,636	10,760	12,029
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	—	10	0	20	20
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	—	8.2	-6.1	11.9	12.0
純資産総額 (百万円)	—	29,061	20,013	11,987	9,209	7,218

※ファンド年間騰落率は、収益分配金 (税込み) を再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

※騰落率および期間分配金合計については、年間の値を表示しており、期間が1年に達していない場合には表示していません。

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

第10期：2021年10月21日～2022年4月20日

投資環境について

▶ 債券市況

米国債券市況は下落しました。

当期前半は、新型コロナウイルスのオミクロン株の感染拡大への懸念等を背景に米国金利は低下する局面があったものの、米連邦公開市場委員会（FOMC）議事要旨において早期の利上げやバランスシートの縮小に言及がなされるなど金融引き締めの姿勢が示唆されたこと等を背景に、米国金利は上昇しました。

当期後半は、ロシアによるウクライナ侵攻を受けて市場のリスク回避姿勢が高まったこと等を背景に米国金利は低下する局面があったものの、消費者物価指数（CPI）が市場予想を上回ったことでインフレ率の上昇が懸念されたことや米連邦準備制度理事会（FRB）が利上げを開始したことを背景に、米国金利は上昇しました。

スプレッド（国債に対する上乗せ金利）セクターにおいては、米国金利が上昇したことやスプレッドが拡大したこと等を背景に、米国ハイイールド社債、新興国債券は共に下落しました。

▶ 為替市況

期を通じてみると円安・米ドル高となりました。

FRBがテーパリング（量的緩和の縮小）および利上げを開始したことに加え、今後も利上げペースを加速するとの見方が強まったなかで、日本銀行は金融緩和を継続したことから、日米金利差の拡大が意識され、円安・米ドル高となりました。

▶ 国内短期金融市場

無担保コール翌日物金利は0%を下回る水準で推移しました。

当期の短期金融市場をみると、日銀は長短金利を操作目標として金融市場調整を行いました。コール・レート（無担保・翌日物）はマイナス圏で推移し、足下のコール・レートは-0.016%となりました。

▶ 当該投資信託のポートフォリオについて

▶ ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド <為替ヘッジなし> (年2回決算型)

主として円建て外国投資信託であるピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD) への投資を行いました。また、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券を一部組み入れた運用を行いました。

▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD)

世界（新興国を含みます。）の幅広い種類の公社債およびそれらの派生商品を高位に組み入れる運用を行いました。

金利戦略

適切な金利リスク量を見極め、市場環境に応じて機動的に調整しました。米国については、利上げに伴い利回り曲線の平坦化が進む中で相対的に魅力度が低下している長期年限のリスク量を削減する一方、利回り面での妙味が高まっている中期年限を中心にリスク量を積み増しました。一方で、相対的に投資妙味に欠ける

と判断した日本や英国の金利リスクは売り持ちとしています。

セクター配分戦略

米政府関連債や米政府系住宅ローン担保証券といったリスクオフ時に底堅い値動きが期待出来る債券を組み入れることで、ポートフォリオの安定性を維持しました。一方、米国の景気拡大を捉える資産として、米非政府系住宅ローン担保証券やハイールド社債への投資を継続しています。また、メキシコや南アフリカ等の新興国債券への投資についても継続しています。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド コール・ローン等短期金融商品を活用し、 利子等収益の確保を図りました。

▶ 当該投資信託のベンチマークとの差異について

当ファンドの値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。従って、ベンチマークおよび参考指数との対比は表記できません。

分配金について

収益分配金につきましては、基準価額水準、市況動向、分配対象額の水準等を勘案し、次表の通りとさせていただきます。収益分配に充てなかった利益（留保益）につきましては、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用します。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項目	第10期 2021年10月21日～2022年4月20日
当期分配金（対基準価額比率）	10 (0.083%)
当期の収益	10
当期の収益以外	-
翌期繰越分配対象額	2,426

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針 (作成対象期間末での見解です。)

▶ ピムコ・インカム・ストラテジー・ファンド <為替ヘッジなし> (年2回決算型)

円建て外国投資信託への投資を通じて世界（新興国を含みます。）の幅広い種類の公社債およびそれらの派生商品を高位に組み入れた運用を行います。また、一部、マネー・マーケット・マザーファンド投資信託証券の組み入れを維持する方針です。分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針です。

▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD)

ロシアによるウクライナ侵攻およびそれに伴うロシアへの経済制裁の影響から2022年における先進国の実質国内総生産（GDP）成長率は大きく鈍化するとみられています。金融政策については、FRBが2022年3月に利上げを開始するなど、主要中央銀行による金融政策の正常化に向けた動きが継続するとみられています。景気見通しに対するリスク要因としては、

中国の一部で実施されているロックダウン（都市封鎖）の影響による生産・流通の停滞の長期化、高水準でのインフレ継続、想定よりも早いペースでの金融引き締めなどを想定しています。特にインフレについては、今回のウクライナ侵攻を受けたエネルギー価格の急騰に加え、広範な物資の物流にも影響が生じており、一段の上昇に警戒が必要です。ユーロ圏については、ロシアによるウクライナ侵攻の影響を大きく受けるなか、3%を下回る水準にまで2022年の実質GDP成長率が低下すると予想しています。なお、ウクライナ侵攻の一段の深刻化に伴いロシアから域内へ天然ガスの供給が途絶える可能性もあり、その場合にはインフレ率はさらに上昇し、ユーロ圏が景気後退に陥ることも想定されます。

運用戦略としてはリスク取得に過度に傾斜しない投資指針が重要と考えており、確信度の高いボトムアップの投資アイデアを通じて相対的に高い利回り収入の獲得を継続し、魅力的な投資機会の出現に備えています。引き続き質の良い高利回り資産を中心とする「攻め」の資産と、リスクオフ時にポートフォリオを安定化させる「守り」の資産のバランスを重視し、「良質なインカム」を着実に積み上げることで、元本の保全と安定的なインカムの提供を目指します。

▶ マネー・マーケット・マザーファンド

今後も日銀による金融緩和政策が継続すると想定されることから、短期金利は引き続き低位で推移すると予想しています。以上の見通しにより、コール・ローン等への投資を通じて、安定した収益の確保をめざした運用を行う方針です。

お知らせ

▶ 約款変更

- ・該当事項はありません。

▶ その他

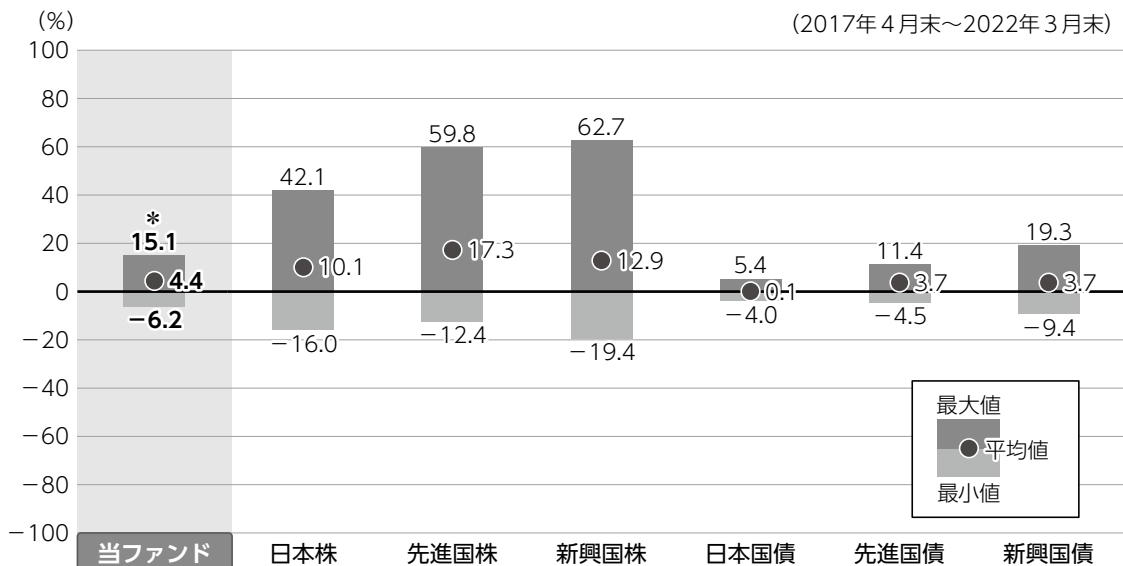
- ・該当事項はありません。

*本書が、受益者のみなさまのお手元に届くのは作成対象期間末から2ヵ月以上が経過していることにご留意ください。
なお、最近の運用状況や約款変更の内容等は当社ホームページ (<https://www.am.mufig.jp/>) にて開示を行っている場合があります。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／債券
信託期間	2027年10月20日まで (2017年10月2日設定)
運用方針	<p>円建ての外国投資信託であるピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD) の投資信託証券への投資を通じて、主として世界 (新興国を含みます。) の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等に投資を行います。なお、証券投資信託であるマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券への投資も行います。</p> <p>円建ての外国投資信託への投資は高位を維持することを基本とします。</p> <p>投資信託証券への運用の指図に関する権限は、ピムコジャパンリミテッドに委託します。</p> <p>実質的な組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。</p>
主要投資対象	<p>■当ファンド ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD) およびマネー・マーケット・マザーファンドの投資信託証券を主要投資対象とします。</p> <p>■ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD) ピムコ バミューダ インカム ファンド (M) への投資を通じて、世界の幅広い種類の公社債等およびそれらの派生商品等を主要投資対象とします。</p> <p>■マネー・マーケット・マザーファンド わが国の公社債等を主要投資対象とします。 外貨建資産への投資は行いません。</p>
運用方法	世界 (新興国を含みます。) の幅広い種類の公社債等を実質的な主要投資対象とし、利子収益の確保および長期的な値上がり益の獲得をめざします。
分配方針	<p>経費等控除後の配当等収益および売買益 (評価益を含みます。) 等の全額を分配対象額とし、分配金額は、基準価額水準、市況動向等を勘案して委託会社が決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>分配金額の決定にあたっては、信託財産の成長を優先し、原則として分配を抑制する方針とします。(基準価額水準や市況動向等により変更する場合があります。)</p> </div>

ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



●上記は、2017年4月から2022年3月の5年間に於ける1年騰落率の平均・最大・最小を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて定量的に比較できるように作成したものです。

*ファンドについては2018年10月～2022年3月の同様の騰落率を表示したものです。

各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数 (TOPIX) (配当込み)
先進国株	MSCI コクサイ・インデックス (配当込み)
新興国株	MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込み)
日本国債	NOMURA-BPI (国債)
先進国債	FTSE世界国債インデックス (除く日本)
新興国債	JPMorgan Global Diversified

●詳細は最終ページの「指数に関して」をご参照ください。

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

●全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

●ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

●騰落率は直近前月末から60ヵ月遡った算出結果であり、ファンドの決算日に対応した数値とは異なります。

当該投資信託のデータ

2022年4月20日現在

▶ 当該投資信託の組入資産の内容

組入ファンド

(組入銘柄数：2銘柄)

ファンド名	第10期末 2022年4月20日
ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD)	99.3%
マネー・マーケット・マザーファンド	0.1%

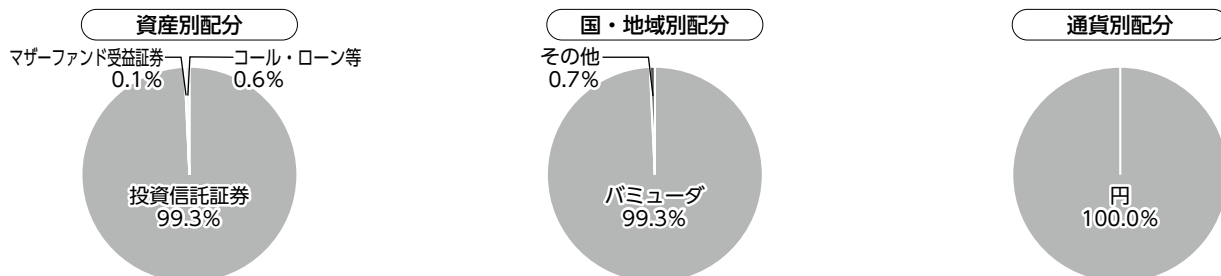
※比率は当ファンドの純資産総額に対する各投資信託証券の評価額の割合です。

純資産等

項目	第10期末 2022年4月20日
純資産総額 (円)	7,218,626,780
受益権口数 (口)	6,001,031,004
1万口当たり基準価額 (円)	12,029

※当期中において追加設定元本は130,657,964円
同解約元本は1,002,210,839円です。

種別構成等



※比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等（国内外）を相手先としてのファンドの余剰資金等と合せて運用しているものを含みます。

※【国・地域別配分】、【通貨別配分】は、組入ファンドの発行地、発行通貨を表示しています。

2021年10月31日現在

組入上位ファンドの概要

▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド A - クラスY (USD)

基準価額の推移

2020年10月31日～2021年10月31日



基準価額以外の開示情報につきましては、各通貨毎のクラス分けされたものがないため、「ピムコ バミューダ インカム ファンド (M)」ベースで表示しています。

1万口当たりの費用明細

2020年11月1日～2021年10月31日

ファンドが投資対象とする投資信託証券では運用管理費用（信託報酬）はありません。

▶ ピムコ バミューダ インカム ファンド (M)

組入上位10銘柄

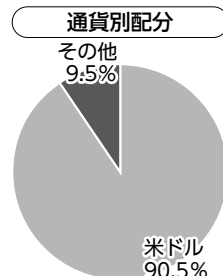
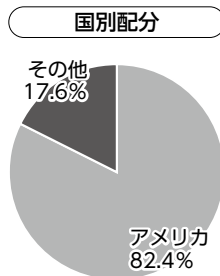
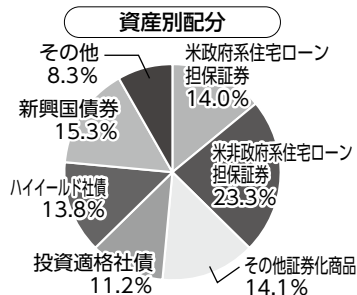
(組入銘柄数：1,874銘柄)

	銘柄	国	業種／種別	比率(%)
1	FNMA TBA 3.5% DEC 30YR	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	6.7
2	GNMA II TBA 3.0% DEC 30YR JMBO	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	4.3
3	U S TREASURY NOTE	アメリカ	米政府関連債	2.7
4	U S TREASURY INFLATE PROT BD	アメリカ	米政府関連債	1.6
5	SOUTH AFRICA (REP) BD SER R186	南アフリカ	新興国債券	1.3
6	LMAT 2020-RPL1 A1 WM50 WC4.2242 144A	アメリカ	米非政府系住宅ローン担保証券	1.2
7	IHEARTCOMMUNICATIONS INC TL B 1L USD	アメリカ	バンクローン	1.1
8	U S TREASURY INFLATE PROT BD	アメリカ	米政府関連債	1.0
9	U S TREASURY INFLATE PROT BD	アメリカ	米政府関連債	0.8
10	GNMA II TBA 2.5% DEC 30YR JMBO	アメリカ	米政府系住宅ローン担保証券	0.7

※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。

※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）をご覧ください。

種別構成等



※比率はマスターファンドの純資産総額に対する割合です。構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

968469

2021年11月22日現在

組入上位ファンドの概要

マネー・マーケット・マザーファンド

基準価額の推移

2021年5月20日～2021年11月22日

(円)



1万口当たりの費用明細

2021年5月21日～2021年11月22日

当期において費用が発生していないため、費用明細は作成しておりません。

組入上位10銘柄

(組入銘柄数：2銘柄)

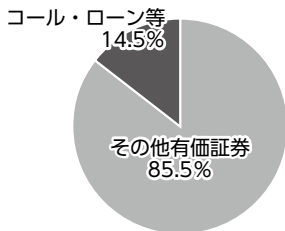
順位	銘柄	種類	国・地域	業種/種別	比率(%)
1	アプラス 211124	その他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	61.1
2	グンゼ 211124	その他有価証券	日本	コマーシャル・ペーパー	24.4
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

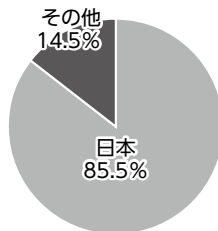
※なお、全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書(全体版)でご覧いただけます。

種別構成等

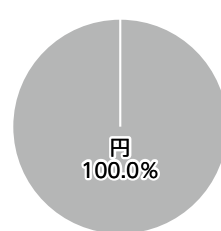
資産別配分



国・地域別配分



通貨別配分



※比率はマザーファンドの純資産総額に対する割合です。
構成比率が5%未満の項目は「その他」に分類しています。

※原則、国・地域については、発行地を表示しています。

※国・地域別配分の「その他」には、コール・ローン等のように、複数の金融機関等(国内外)を相手先とした他のファンドの余裕資金等と合わせて運用しているものを含みます。

指数に関して

▶ 「ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

●東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東証株価指数（TOPIX）（配当込み）とは、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、浮動株ベースの時価総額加重方式により算出される株価指数です。TOPIXの指数値及びTOPIXに係る標章又は商標は、株式会社JPX総研又は株式会社JPX総研の関連会社（以下「JPX」という。）の知的財産であり、指数の算出、指数値の公表、利用などTOPIXに関するすべての権利・ノウハウ及びTOPIXに係る標章又は商標に関するすべての権利はJPXが有します。

●MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）

MSCI コクサイ・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。また、MSCI コクサイ・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）

MSCI エマージング・マーケット・インデックス（配当込み）とは、MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。また、MSCI エマージング・マーケット・インデックスに対する著作権及びその他知的財産権はすべてMSCI Inc.に帰属します。

●NOMURA-BPI（国債）

NOMURA-BPI（国債）とは、野村證券株式会社が発表しているわが国の代表的な国債パフォーマンスインデックスで、NOMURA-BPI（総合）のサブインデックスです。当該指数の知的財産権およびその他一切の権利は同社に帰属します。なお、同社は、当該指数の正確性、完全性、信頼性、有用性、市場性、商品性および適合性を保証するものではなく、当該指数を用いて運用されるファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

●FTSE世界国債インデックス（除く日本）

FTSE世界国債インデックス（除く日本）は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。FTSE Fixed Income LLCは、本ファンドのスポンサーではなく、本ファンドの推奨、販売あるいは販売促進を行っておりません。このインデックスのデータは、情報提供のみを目的としており、FTSE Fixed Income LLCは、当該データの正確性および完全性を保証せず、またデータの誤謬、脱漏または遅延につき何ら責任を負いません。このインデックスに対する著作権等の知的財産その他一切の権利はFTSE Fixed Income LLCに帰属します。

●JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイド

JPモルガンGBI-EMグローバル・ダイバーシファイドとは、J. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーが算出し公表している指数で、現地通貨建てのエマージング債市場の代表的なインデックスです。現地通貨建てのエマージング債のうち、投資規制の有無や、発行規模等を考慮して選ばれた銘柄により構成されています。当指数の著作権はJ. P. モルガン・セキュリティーズ・エルエルシーに帰属します。



三菱UFJ国際投信